

福井城天守台「福の井」

「福の井」の歴史

「福の井」は慶長6年（1601）の北ノ庄城（後の福井城）築城当時からあった井戸と考えられます。安永4年（1775）の「御城下絵図」の天守台には「福井」と記された井戸が描かれています。この頃には一般に「福の井」と呼ばれ、福井城の特別な井戸となっていたことがうかがえます。

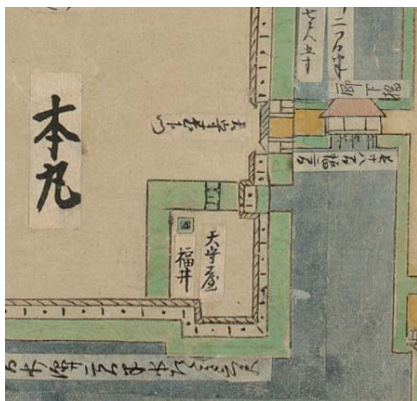
福井藩の正史である「越前世譜」に「北庄を福井と御改候事（天守之傍ニ福井と云めいせいあり、其名ニ依而被改之）」とあるように、名井「福の井」が福井の名の由来になったという説も生まれました。しかし実際は、寛永元年（1624）、福井藩第3代藩主松平忠昌が「北ノ庄」の名は敗北につながるとして「福居」に改名し、それが1700年頃に「福井」となったと考えられています。

昭和23年（1948）の福井地震では、本丸の石垣がいたる所で崩れました。「福の井」は崩壊することはありませんでしたが、井戸の形が大きく歪んだことから、震災後に井戸枠が大きく作り変えられました。

「福の井」の再整備

「福の井」のかつてをしのび、さらに親しんでいただけるように、井戸の石積みや井戸枠を福井地震前の大きさに復元整備しました。井戸の石積みは割れていて使えないものを除き、昔のままの石を使用しています。整備に先立ち発掘調査をおこない、現在の地盤から約60センチ下で見つかった笏谷石製の石敷きや排水溝も復元しました。井戸の上屋や釣瓶は修景施設として新たに設置し、平成29年（2017）3月に完成しました。

現在の「福の井」は、口径約1.6m、深さ約5.1m、水深約2.1mです。



御城下絵図（安永4年）
松平文庫 福井県立図書館保管



昭和15年頃の「福の井」
「富久井」福井市立郷土歴史博物館提供



再整備前の「福の井」